



一人一人に合った補整具を選ぶことが大切

Zoom Up

# がんになっても自分らしく 補整具購入の助成開始

がんになると体や心に大きな負担がかかり、生活に影響を及ぼします。市では、患者の経済・心理的負担を減らすため、7月から新たに医療用補整具の購入費助成を始めます。

## 補整具で自分らしく生きる

がんは、日本人の2人に1人がかかるといわれる身近な病気です。多くの人が、治療の副作用による外見の変化で、今まで通りの生活が送れなくなる不安を抱えています。市では、がん患者の方が安心して生活と治療を両立できるように、新たに医療用補整具の購入費用などの助成を始めます。

助成の対象は、がん治療による容姿の変化を補うための医療用ウィッグや乳房補整具です(左欄参照)。ウィッグは、頭にかぶるものや部分的に覆うものなどがあり、乳房補整具は、公衆浴場で付けたまま入浴できる種類もあります。自分に合う補整具を選ぶには、高いもので数十万円の費用がかかります。市では、購入費用のうち上限5万円までを助成。がん治療と生活の両立を支援します。

### がん患者医療用補整具購入等助成金

■**対象者** 申請日に市内在住で、がんと診断されて治療を受けた、または治療中の方

■**対象補整具**  
**《医療用ウィッグ》** 全頭用・部分用ウィッグ、毛付き帽子、付属品(頭皮保護用ネット、ウィッグスタンド、くし、クリーナーなど)  
**《乳房補整具》** 補整パッド、人工乳房(体内埋め込み型を除く)、補整着、入浴着、付属品

■**助成額** ウィッグ、乳房補整具各上限5万円  
 ※いずれも4月以降の購入費用、レンタル料、購入時の送料、保守料金、診断書作成手数料が対象

■**健康づくり課**や市HPにある申請書を7月1日から健康づくり課へ。

☎健康づくり課 ☎225-2201

詳細はこちら

かかる中、実費で購入するのは限界がある。助成金は大きな助けになる」と話します。

### 早期発見・治療のために

市では、がんになってからの支援だけでなく、早期発見に向けた検診にも力を入れています。がんは初期段階で発見できれば、9割が完治するといわれています。早期のがんは症状が現れず発見が難しいため、定期的な検診が重要です。6月には、40歳以上の男性と20歳以上の女性へ受診券を送付しました。早期発見・治療のため、検診を受けましょう。

健康な暮らしは誰もが願うことです。市では今後も、検診や助成、相談、講座などで、皆さんの健やかな生活を支えていきます。

☎健康づくり課 ☎225-2201

## 水の事故に注意

市内の河川では毎年、水の事故が発生しています。安全に過ごすためのポイントを押さえて、川のレジャーを楽しみましょう。

**事故を防ぐポイント**

- 子どもだけで遊ばない、遊ばせない
- 水辺にいる子どもから目を離さない
- 泳ぐ力を過信せず、無理をしない
- お酒を飲んだら、水に入らない
- 溺れている人を見つけたら大声で近くの人に知らせ、すぐに119番通報
- 応急手当ての知識を身に付ける

**事故に遭わないために**  
 昨年は12件の水難事故が発生しました。水の事故は誰にでも起こり得ます。自身の泳ぐ力を過信せず、川の様子が変わったと感じたら、水から出るようにしましょう。特に飲酒をした後、川に入ることは避けてください。

警防課 鈴木 大樹(38) 避けてください。

☎警防課 ☎223-9368

## 重症化すると命の危険も 熱中症に警戒

梅雨が明けるとこの時期は、熱中症のリスクが高まります。ポイントを確認して、楽しい夏を過ごしましょう。

☎健康長寿推進課 ☎225-2174

◆**室内に潜む危険**  
 昨年度、熱中症で搬送された人の約40%が屋内で発症しています。屋外だけでなく、屋内でも注意が必要です。

◆**年齢問わずに警戒を**  
 子どもや高齢者は症状に気づきにくいので、周りの人の注意が必要です。

◆**予防するには**  
 ・エアコンを使用  
 ・のどが渇く前に水分・塩分を補給  
 ・日傘や帽子、通気性の良い涼しい衣服を着用

◆**熱中症かなと思ったら**  
 涼しい場所に避難し、冷たいタオルなどで体を冷やして水分や塩分を補給しましょう。

◆**熱中症警戒アラートの活用**  
 危険が高まるとテレビ、防災無線、環境省公式LINEなどで発表されます。外出を避けるなど対策を取りましょう。

アラートの詳細と環境省公式LINEの登録はこちら

熱中症で搬送された人の割合(2022年度市消防本部管内)

未成年 11%  
 成人 39%  
 高齢者 50%